

「東京真田町の会」会報

日本タボス

平成 18年 12月 25日



初冠雪の鳥帽子岳

…… 透きとおるうふるさとの晩秋 ……

写真提供：深町共栄 理事
撮 影：2006.11.12 千石城にて

NO.

19

ふるさとの風景 1

写真撮影：編集部 武捨 衛人



秋色の信綱寺



碓氷峠を越えると迎えてくれる
信濃の山…快晴の浅間山



早春のふるさと…
お屋敷の清流



駒込橋から大松を望む



山家神社の巨大な鬼瓦



ふるさとののどかな秋…
空気が美味しそうです



新興の温泉付別荘地…
地藏峠手前の十福の湯付近



真田氏歴史館の“真田庵”…
胡桃のおはぎが絶品です

東京真田町の会会長あいさつ



会長 中島正江

(戸沢出身)

この度、東京真田町の会第四代会長をお引き受けする事になりました、中島正江で御座居ます。

歴代会長様達は立派な方々で、その後を主婦の私が引き継ぐと思うととても気が重いのですが、楽しい会にするように頑張っていきたいと思いますので、皆様よろしくご支援下さいますようお願い申し上げます。

真田町も、上田市、丸子町、武石村と合併し、新生「上田市」が発足し、その記念式典が八月十九日に挙行され、私も参加させて頂きました。

何か淋しいような気もいたしますが、これからの発展のためには広域化が避けられないとのことですから、私たちも気持ちを切り替えて見守っていきましょう。そして上田市と真田町に対して何か私達東京真田町の会でご協力が出来る事があれば、お役に立ちたいと思います。

ともかく、東京真田町の会は、会員同士、懐かしく真田町の事が語り合える場として、総会、ゴルフ会、マレットゴルフ会、親睦旅行会など、是非皆様にご参加をして頂けるような企画をして行きたいと思えます。旅行も昨年からバス旅行にしております。又来年には、東京と真田町の子供達の第二回サッカー交流会もできたらいいなと思っております。

世の中にはいろいろな出来事がありますが、どうか会員の皆様がお元気で過ごして下さいさるよう役員一同願っておりますし、皆さんと共に東京真田町の会をより上げて行きたいと考えております。

それにつけても、この真田町の会も二十周年になろうとしておりますが、年々会員の減少傾向にあります。もう少し若い方達にも入会して頂けるように努力していかなければと思います。東京近郊にお知り合いの方達がいらつしやいましたら、是非東京真田町の会がある事をご紹介して下さいますようお願い申し上げます。

新生上田市

「日本のまん中人がまん中生活快適都市」



上田市長 母袋創一

大きさを痛感しているところであります。

東京真田町の会の皆様方には、益々ご健勝でご活躍のこととお喜び申し上げます。また、日ごろから故郷に対し、温かいご支援やご協力を賜り、心から感謝申し上げますとともに、六月の総会において長きにわたり会長としてご尽力された塩沢会長が勇退され、中島新会長のもと新たな体制がスタートされた「東京真田町の会」の今後益々のご発展を心からお祈り申し上げます。

さて、今年三月六日に上田市・丸子町・真田町・武石村の4市町村が合併して、新生「上田市」が誕生しました。その後の市長選挙において、多くの皆様方の温かいご支援を賜り、新生上田市の初代市長として市政を任せていただくことになりました。誠に光栄に存じますと同時に、その責任の重

新生上田市は、人口十六万三千人。北はスポーツ合宿のメッカ「菅平高原」、南は360度の眺望が魅力の「美ヶ原高原」まで、面積五百五十二平方キロメートルを擁し、製造品出荷額は、約五千九百億円（平成十六年工業統計調査）で県内トップレベルを誇る県内屈指の産業都市であります。また、別所温泉・丸子温泉郷など特色ある温泉地や上田城をはじめとする真田一族ゆかりの史跡や信濃国分寺・生島足島神社・安楽寺など国宝や重要文化財等に指定される歴史的文化遺産も多く抱え、さらに最近では映画ロケも盛んな観光都市としての顔もあわせもっております。このように、豊かな自然環境と、歴史、文化そして産業のバランスがとれ、個性的で魅力に溢れた幾多の地域資源を有することになった今、あらゆる分野で新市のスケールメリットを最大限に活かしながら、この資源を連携させ更に活用することで、新市の発展に向け

た無限の可能性が生まれるものと考えております。

新上田市のスタートにあたり

「日本のまん中 人がまん中 生活快適都市」をキャッチフレーズに掲げ、市政の主人公は市民であるという信念に基づき「生活者起点」に立った「地域経営」という視点と発想を常にもったまちづくりを進めてまいります。このためには、常に現状を変える(Change)意思を持ち、今を良き機会(Chance)と捉え、そして市民の皆さんとの協働(Collaborate)により、新時代の創造に挑戦(Challenge)していきたいと考えます。そして市民一人一人の力をあわせ、市民すべてが「住んでいて良かった」、訪れた人すべてが「来て良かった」、と思っていただけの「輝く上田」、「美しい上田」の創造に向けて全力を傾けてまいりますので会員の皆様には、新生「上田市」の新たなまちづくりをあたたく見守っていただき、旧真田町と変わらぬお力添えと、貴重なご意見とご提言を遠慮なく賜りますようお願い申し上げます。

おわりに、東京真田町の会ですますのご発展と会員各位のご健康を心からご祈念申し上げ、会報「日本ダボス」に寄せる皆様へのご挨拶といたします。

はじめまして 新生上田市議会です



上田市議会議長 土屋 陽一

「日本ダボス」第十九号の発行おめでとうございます。また、上田市議会議長として挨拶文を掲載させて頂く機会に恵まれておりありがとうございます。

平成十八年三月六日新生上田市が発足致しました。旧真田町長の箱山好猷様はじめ旧真田町議会議員そして、旧真田町の皆様の新市に対する多くの期待をもつてその第一歩がスタート致しました。四月九日の市議選挙後、二十七日の臨時議会で議会構成が決まりました。合併に向け幾多の困難があったとは言え、この上は心を合わせ新生上田市のまちづくりを市民の皆様と一緒に進めたいと議会でも研究し尽力をして参ります。そして、議員三十四人は、上田市民の皆様への負託に応えるためにもまた、東京真田町の会の皆様のご期待に副えるためにもより一層奮励努力をして参ります。

さて、旧真田町をふるさととする東京真田町の会の皆様はそれぞれ

れのお立場でご活躍をされていらっしゃるということおもいます。そして、いつもふるさとに心を寄せて温かく見守って下さり大変有難く感じております。旧上田市議会議員の私は、幸隆・昌幸・幸村らの真田一族や真田十勇士を愛する者の一人として旧真田町のイベントや祭りにいつも関心を寄せておりました。

このたびの合併により上田城をはじめとする史跡と真田地域の史跡とがより一層強く結び付けられ、歴史研究や観光面でその輝きを一層増してくれるものと信じております。また、新市発足記念式典の前日の八月十八日には和歌山県九度山町をはじめとする国内外の十都市と姉妹都市などの調印式が行われました。更に十月十日に大阪城と上田城との間で友好城郭提携もされ、「真田一族」の名が名実と共に天下に鳴り響いております。

新生上田市は、上田、丸子、真田、武石のそれぞれの地域の自然、歴史、文化などの貴重な資源を大切にし、それを有機的に結び付けることにより、その魅力を力強く発信できる都市であります。合併

時の「菅平から美ヶ原まで」の心を忘れず、旧市町村をふるさととする方々が心を合わせ「ふるさと上田」を愛し続けて下さることをご期待申し上げます。そして、この「日本ダボス」を通して会員の皆様方の心と心のふれあいと絆がより一層深まり中島正江会長様を中心に東京真田町の会が益々ご発展されますことをお祈り申し上げます。はじめての挨拶とさせて頂きます。

議長 土屋陽一
副議長 藤原信一

常任委員会構成

(◎委員長、○副委員長)

総務文教委員会 ◎安藤友博、○

久保田由夫、小林隆利、井沢信章、三井和哉、清水俊治、下村栄、堀善三郎、丸山正明

産業水道委員会 ◎大井戸莊平、

○滝沢清茂、西沢逸郎、渡辺正博、下村聖、児玉将男、土屋陽一、武藤弘

厚生委員会 ◎金井忠一、○足立

誠、竹花静江、小林三喜雄、池上喜美子、外山愷、南波清吾、成田守夫、藤原信一

建設消防委員会 ◎尾島勝、○

土屋孝雄、古市順子、内堀勝年、大井一郎、田中武、深井武文、南雲典子

上田市から郷土を愛する皆さまへ

上田市会議員

清水 俊 治



第十九回、「東京真田町の会」総会にお招きをいただき心より感謝申し上げます。

十八年三月六日新上田市が誕生しまして、早くも十ヶ月が経過いたしました。今回市議会議員として三名参加させていただきました。懐かしい皆様との会話、歌に踊りにと時間の過ぎるのも忘れての一日でありました。

真田町が合併を選択しまして、新たな歴史の構築に向けての出発であります。又長野県政も田中県政から村井県政へと大きく変化

をしてまいりました。

基礎的自治体との係わりを大事にするとう村井県政に期待をするところでもあります。新上田になりまして国行政改革、特に三位一体の改革、地方交付税、国庫補助負担金の3つの配分が市の財政に大きく影を落し（日本全国で）大変な時期を迎えております。

今はどこの市町村でも財政事情が一段と悪化しております。特に小さな自治体ほど大変であります。政府は財政の健全度をはかる「実質公債費比率」を新に導入をいたしました。

自治体が自由に借金の出来る時代は終わりました。これはすでに国の財政が破たん寸前にあることからご理解いただけることでもあります。大変な時代になりました。話は変わりますが、今旧上田市内の商店の空洞化が話題になっております。議会でも常にその事に議論が集中します。かつての賑わいは今ありません。年毎にシャッター通りが多くなっております。そんな中ですが、市長を先頭に活性化を促す施策として、観光に力を入れております。

昨年は千本桜祭り、全国各地より大型バス千台以上に来ていただきました。また別所線やフィルムコミッションによる映画やテレ

ビの撮映が多くされております。

来年はNHKの大河ドラマ「風林火山」の舞台に城跡や寺院、山城等が使われるとのこと、このことについても大変協力体制を整えつつあります。

私もが議会に行きまして真田町として、誇りに思えることが幾つかあります。一例として、菅平高原のサニアパーク、高原野菜、あるいは福祉に対する町民の協力（ボランティア）活動、学校教育、自校給食、保育園、自治センターを中心に周辺部にすべての施設が備わっていること、議会関係者の視察も多くあります。

そして東京真田町の会の皆さまの心のこもった郷土愛であります。四月の桜の季節には是非「東京真田町の会」としてお花見ツアーを組んでいただき散策をして下さい。最後に東京真田町の会の益々の御発展と皆様方の御健勝と御多幸をお祈り申し上げごあいさつとさせていただきます。

会報

【日本ダボス】へ

真田地域区長会長

佐藤 博

第19回東京真田町の会総会の

ご盛会誠におめでとうございます。長年に渡り役員の皆様の努力と会員の皆様の協力あつてのことと推察いたします。懐かしい方々とお会いし、感動と笑いの集いをありがとうございました。

故郷を離れ幾多の苦難を乗り越え現在の生活を築かれ活躍されている皆様に頭が下がると共に敬意を表します。



また、会報「日本ダボス」により、真田町に想いを寄せ、交流を続けていただいていますことに感謝申し上げます。

来年はNHKで風林火山が放映され、幸村ゆかりの地が脚光を浴びようとしております。お友達を誘って郷里真田町に足を運んで、今迄以上に親交を深めていただけたらと思います。

さて、皆さんもご承知のとおり、今年3月6日に4市町村の合併により新生上田市になりました。

この合併には丸4年、足掛け5年の歳月を要し、町全体が賛成、反対にゆれ、時には町民同士が険悪な雰囲気となり、その道のりは

決して平坦なものではありませんでした。皆さんにもご心配をお掛けしました。

今は合併による住民の不安を解消するため、先輩方が築いてこられた真田町を残し、美しい自然を残し、地域コミュニティを大切にしながら地域で出来ることは地域住民の手で作るといった考え方を基本にして、分権型都市を目指し、その実現に向け住民と行政が一体となって地域づくりを進めているところであります。

真田地域が抱える、道路では国道144号線上野バイパスの問題、農業では後継者や遊休農地、有害鳥獣等の問題、福祉や介護、子育て支援の問題、観光や産業、防災や環境、教育や歴史文化等々の山積された問題解決に、また高齢率、25%、4人に1人が65歳以上となる超高齢化社会を迎えての将来像やビジョンを皆で考えていかねばなりません。

そして合併による効率化や相乗効果によって地域が活性化し、安全で安心して暮らしのできる町を作り後世に残していきたいと思えます。

どうぞ皆さんも郷土の地域づくりに、ご意見、ご提言をお願いいたします。合併による地域の発展を願い、東京真田町の会の発展と、会員お一人お一人が健康に留意さ

れ活躍されますよう心からご祈念申し上げます。

真田の里は幸せの宝庫です

真田町長寿会長

常田 軍三



私は真田町本原の荒井に住んでいます。住まいは荒井の集落内の旧国道沿いにありますが、平成十五年一月末、第二の人生の職場、上田商工会議所の専務理事を退任したとき思うことがあって、家から二百メートルほど離れた畑の中に、十二畳敷きの小さい建物を造

り、「真田東雲庵^{しのあ}」と名付けました。

合併後の真田地域自治センター（旧真田町役場）から赤井に通じる県道本原バイパス沿いの、セブンイレブンから東二百メートルほどのところにあります。春になりま

すと庵^{いおり}の庭の梅の花が咲き、近

くの山遠家の桜並木が近景を飾ります。さらに庵から眺める横尾から曲尾、萩にかけての山村のたたずまいは、夕日に映えて一幅の絵のようです。初夏には近くの峰山の林からは、ウグイス、カッウ、山鳩の鳴く音が聞こえ、また、秋には周囲を取り巻く山々が多彩な紅葉に彩られ、その美しさは筆舌に尽くせません。こんなふるさと風景の中に住んでいますと、しみじみ、ここが充実してくるのを感じます。井上靖の著書『孔子』の中にこんな一節があります。

「暮方、自分の故里に燈火の入るのを見て、ああ、わが故里にも、いま燈火が入りつつある。村人たちにとつては、昼の労働の時間が終わり、今やこれから夜の休息の時間が始まるうとしている。——こういう思いを持って、故里の村に点りつつある燈火を眺めることは、人間の数少ない幸せの一つであるに違いありません」

このことばは、語り手の主人公が、旅からの帰り、ふるさとが一望できる峠路で抱くふるさとへの感慨です。この文を読んだとき、私はたとえようのない共感を覚えました。ふるさとのともし火に寄せる思いが共通項となつて、私に深い「幸せ」を感じさせたからです。私の場合の「幸せ」は、夕暮れ、農作業を終えて、庵の裏窓から傍陽

方面の灯火の煌めきを目にすると、きまつて心に湧いてくる「幸せ」です。ふるさとがあたえてくれるこの「幸せ」はなんと貴重で、心温まる恵みであろうか、と私は感じています。

さて、私は先年真田一族にかかわる事蹟を内容とする『真田随想録』上中下の三巻を完結しましたが、この本の執筆を通じ、あらためて知った一族の心の中に流れる「愛郷心」に感動しました。真田家中興の祖といわれる幸隆の「ふるさとに寄せる心」が原点となつて結晶した、昌幸、信之・幸村に続く真田三代の「愛郷心」は、真田の里の貴重な無形の財産だと思えますし、私の「幸せ」を形成する大切な宝の一つでもあります。私は、ふるさと真田の里は「幸せの宝庫」である、と誇りに思い毎日を過ごしています。

最後になりましたが、先般はお招きをいただき、懐かしい方々にご歓談できましたことを心から感謝し、貴会のみますますのご発展と皆様のご健勝を祈念して筆を擱きます。

徒然草を読んで

横沢出身

倉島 義明

今年の初め、市の広報誌を読んでいた妻が、「徒然草を読む講座があるわよ」と話しかけてきた。私が昨年読んだ「徒然草を読む」(上田三四二著、講談社学術文庫)の感想を話した事を覚えていたらしい。「お父さんにびったり」というわけだ。「良い機会だから一緒に聞きに行かないか」と誘ったらこの種のものにはあまり興味を示さない妻が、意外にも賛成してくれた。講師の小沢弘子先生に興味があったようだ。というのも青梅市(私の住所)唯一の蔵元である小澤酒造の奥様が講師なら是非一度会ってみたいと思ったらしい。しかし、どうやら人違いだったらしい。



さて、「徒然草」だがご存知のように著者の吉田兼好は、今から700〜800年前の中世に生きた今とはまったく違った時代を生きた人物である。しかし、彼の言うところは、今でも新鮮で、そのまま現在でも通用する事の多い事に驚かされる。というより現在にピッタリ当てはまるのである。市民

センターでの小沢先生の話は、大変面白くユーモアに富んだ話し方は、受講生に好評で妻も楽しく聞いたようだった。濫読家の私は、すでに二・三の著書を読んでいたが先生の話を聞いていろいろな解釈が可能な事に感心した。女性から見た徒然草感もまた悪くないなと思った。

第190段に “いかなる女な

りとも明暮添あけくれそひ見んには、いと心づきなく憎かりなん”(どんなに素晴らしい女性でも朝晩連れ添って顔をあわせていけば、ひどく気に入らなくなりいやになるう)という文がある。小沢先生は「この頃すでに熟年離婚の風潮が芽生えていたんですね」といつては皆を笑わせる。また、かの有名な久米の仙人が女の白い脛はぎを見て神通力を失う話(第8段)では、「いつの時代も男は駄目なものね」と切り捨て女性たちの喝采を浴びるなど聞いているものを飽きさせない。

徒然草は、抹香臭いと思っていたが、そういう面があるものの、共感したり納得できる点も多く人生を深く生きた達人の考えが詰まっている。各段から二・三の文を選んで私なりの考えを述べてみた。

第38段の冒頭にいきなり“名

利に使われて、閑しずかなる暇いとまなく一生を苦しむことこそ愚かなれ”(名誉と利益を追求して心豊かな時間を過ごす事もなく、一生苦しむ事になるのは、なんと愚かな事よ)と出でくる。まるで現在の私たちの日常を見通したかのような文である。最近の世相がその事を良く表している。ライブドア事件を

初めとして、毎日のように報道される企業の不正事件。お決まりのように長机の前で謝罪を繰り返す企業のトップ、まるで反省の気持ちの伝わらない記者会見、本当にウンザリする。かと思えば学問の世界でも負けじとばかり、論文の捏造や研究費の不正流用が横行する始末。何と名利に使われて一生を棒に振る人の多い事か。兼好はすでに数百年前にこの事態を喝破していたのだ。日本には、昔から

程々ほどほどという美德がある。漁民は必要以上に魚を獲らず、商人は、設け過ぎれば寺社に寄付して社会に儲けを還元したものだ。今は利益のあくなき追求は善とする風潮がまかり通っている。真に嘆かわしい。

さて第123段で“人の身に止むことを得ずして営む所、第一に食ふ物、第二に着る物、第三に居

る所なり。人間の大事、この三つに過ぎず”という文もあり、衣食住の重要性を指摘した後、病気になるたら薬を求める事が出来れば、それで“富めりとす”と述べ、この四つ以外に何か不足があるうかと言っている。私の家の部屋に“安分以養福”という短冊が飾ってある。“分に安んじて以て福を養う”と読むようだが兼好の発想と通ずるところがあるように思えて仕方がない。幸福とは何か改めて考えさせられる第123段である。

最後に少し長い第155段の一部を紹介する。“生・老・病・死の移り来る事、またこれに過ぎたり。(中略)死期しきは序ついでを待たず。死は前よりしも来たらず、かねて後ろに迫れり。人皆死ある事を知りて、待つことしかも急ならざるに覚えずして来る”(それほどにも死を待ち迎える事が切迫していかないときに不意にやってくるのが死だ)・・・後半略。まったくこの通りである。健康なときは死ぬなんて考えずいつまでも生き続けるような気持ちでいる。いったん病気になるの大騒ぎし死を恐れて右往左往するのが人間である。回復すればケロッとしている。しかしこの年齢になるといつ死が訪れても不思議ではない。まさしく音も

なく後ろに迫っているのだ。東京真田町の会でも先年塚田君という貴重な人物を失った。彼とは同い年で小学校から高校まで机を並べて学んだ仲だ。さびしさを禁じえない。互いに自由な身になったら温泉にでも行つて来し方行く末を思い切り話し合おう、と言つていた矢先の事だった。

この原稿依頼のあった日、一年下の西牧氏の訃報を聞いた。まさに「死は前よりしも来たらず後ろに迫れり」を地で行く感じがした。第93段にあるように「されば、人命を憎まば、生を愛すべし。存命の喜び、日々に楽しまざらんや、」で一日一日を充実して楽しく過ごしたいものである。

妻とは、別々の目的で臨んだ徒然草の受講だったが私に大きな収穫をもたらしてくれた。結婚後三十有余年、二人の子供も成人、独立し今は妻と二人の暮らしである。その妻と並んでメモをとっている。どこか中学生の頃好きな女の子と並んで勉強しているような何となく甘酸っぱい青春の妄想に取り付かれた一瞬があった。久しぶりに真剣な妻の横顔を盗み見しながらこれからの人生を共に手を携え、互いに慈しみあいながらどこまでもそのときが来るまで歩み続けようと思つたのである。

ところで この文章は妻の厳しい検閲を通つています。

参考：徒然草に興味のある方は次の著作を読んで見たらよいのではないかと思います。

・「五十歳から読む『徒然草』」

北 連一 著 廣済堂出版

・「使える『徒然草』」

斉藤 孝 著 PHP新書

・「徒然草が教える人生の意味」

藤本 義一 著 大和書房

望 郷

萩出身 柳沢 實



長野県小県郡傍陽村大字萩区
チイサガタ ソエヒ

早稲田八五一番地、これがわが出生の地、想い出が山程詰った揺籃の地である。南に太郎山、北側の大松山、東を望めばひと際高く聳える烏帽子岳、周囲の山懷に優しく抱かれし傍陽村、我が人生の原

点はここから始まる。唯、その傍

陽村も昭和三十三年、隣接する長

モトハラ

村、本原村、傍陽を含む三村の合併により真田町に、更に平成の大合併は平成十八年三月、上田市真田町と呼称を変えた。

冬来たりなば周囲の山頂は綿帽子で装い、これを数回繰り返せば、やがて里も白銀一色の世界に一変する。雪と戯れ、ソリの遊びに興じ、又夏七夕の一夜、悪童達が遣りたい放題のいたずらは遠い日の思い出だ。

丸木数本で組まれた洗馬川に架る早稲田橋、現在はコンクリート橋を渡り登校した小学校は、忠組孝組のふたクラス合せて百余名の学友は、共に学び、共に遊び、時に争い、八年間の学習を終えれば、恩師より私を踏み台に社会に大きく翔たけの声援、惜別の情に耐えながら、涙と共に饑むけのことは、教室の遠所近所より込み上げる嗚咽とすすり泣き、あの感動の一瞬は未だ脳裏にハッキリと焼き付いた俚だ。

昭和十五年春 間もなく、ひらくであろう校庭の桜を後に、進学、就職、家業の継承にそれぞれの道

に学窓を巣立った。又、胸に秘める青春の想いは、洗馬川哀歌の

エレジー

ウタカタ

水泡と消えし見果てぬ夢、現在も

ニガ

苦く切なく、若き日の一頁と、心の襖にふる里の山河と共に共存している。

ヒダ

長ずればひたすら明日の豊かさを求め、一家の生計を懸命に支え、額に汗し、肩に喰い入る程の重荷に耐え、漸くこれからの重圧より解放され、大きくひと息つけば、社会に於ける家族のあり

様は、家中心から個に力点を移した社会へと様変わり、価値観の落差に唯戸迷う許り。思うことは、有史以来の豊かさと言われる現社会、その基礎を築いたのは我々世代の汗と努力の結晶と自負するが、それらと引替えに失ったものの多さも又否定できない。

長期を誇った昭和の年号も平成と変り、時を同じくして東京、神奈川、千葉、埼玉、各都県に移り住む真田町出身者が集う、東京真田町の会が発足、これには初代小林会長並びに多くの役員皆様方のご尽力、更には強力なご支援を戴いたふる里真田町の皆様方を忘れ

る訳にはいかない。私はこの会の創立のご案内に接し、ふたつ返事で昭和六十三年九月十日、上野池之端文化センターの設立総会に馳せ参じた。以来、今年は平成十八年、どれ程多くの先輩に恵まれ、亦計り知れない知友を得られたとか、私は会で行なわれる各イベントには積極的に参加、人一倍愉しさを満喫している。八十年に及ぶ人生で、私の心の中に凝縮されたふる里は、出生の地真田町に限定されず、信州全域が郷土の範ちゅうである。

私の現住地は千葉県柏市。私は退職後、学習の会柏文化財ゼミナールに参加、歴史を基本に据えた学習も既に二十年、この仲間を誘わない、自慢の信濃路の旅も数回に亘る。その二、三を紹介すれば一、無言館：生島足島神社：白馬ジャンプ台：穂高神社

一、北向観音：松代地下壕：真田宝物館

一、東山魁夷館：中山晋平記念館：高野辰之記念館

その数あるなかで忘れられない旅は、平成十年柏市の福祉バスで真田町を訪ずれた想い出だ。柄沢衛さん、当時町助役、大庭区に住まう郷土史家山田昭一先生、お二人の限らないお力添えを頂き、信綱寺、真田歴史記念館のご案内を

戴いたことで今更乍ら、感謝の念を禁じ得ない。

年齢八十を数える今、これを総轄すれば唯ひと言、長く短し。

夜半の目醒めに床の中で想うこ

とは、幼なかりし頃の山河であり、竹馬の友の仲間達である。

加齢と共に人情の機微に触れなばまぶたに宿るひと雫、涙腺の制動も俚ならぬわが身を如何にとやせん。老いたることは孤独との

闘いとみつけた。

ふる里を愛し、職場を愛し、隣人を愛し、そして我が身に僅かなりとも得意とする分野がありとせば、愚直と言はれようと生涯を懸けてそれを探求、何時しかそれは何かの形で結実、我が身に還ること必至と考える。又それは、何時しか多くの人の理解を得、又評価を得られると考えるからだ。

歳々年々人同じからず、などと言われるが、若きは成長、壮は老化、榮枯盛衰は世のならい、遠く故郷を望めば、想いは不動不変の自然と山河、何をもつてしても、

贖いきれない沢山の想い出と幸せを育くんで呉れた郷土は唯々有難い許りだ。

ふるさと便り

「上田軍記」

の紹介

上田市上田原在住

堀内 泰

(下横道出身)



東京真田町の会の皆さんこんにちは。会報への寄稿の機会をお与えいただきましたので、「上田軍記」という書物の紹介をさせていただきます。

「上田軍記」は、迫り来る徳川の大军を上田城に迎え、これを二度にわたって撃退した真田昌幸父子の物語です。この書物の存在を知ったのは、今から三十年位前でした。しかし、それは活字化された書物の上のことであり、それも引用されたり、要約されたりした一部の文章に過ぎませんでした。

何時か、その原文の全てに行き会いたいものだと言う願いもむなし、自分自身が積極的な働きかけをしなかったことも重なって、いたずらに日だけが過ぎてしまつて

いました。

数年前のある日、偶然にも「上田軍記」の毛筆写本北条家本（上田市舞田）との最初の出会いがありました。ただただ手が震えました。一度出会いがあると不思議なもので、毛筆写本清水家本（上田市小泉）との出会いにも恵まれました。そればかりか、上田市越戸の井沢家本・小泉郡長和町下和田の羽田家本他の存在も知ることができました。先ずは活字化と云うことで、北条家本・清水家本に挑戦しました。とは云え勤めのかたわらにすることであり、遅々として進まず多大な時間がかかってしまいました。

今年の春のことです。今から六十五年ほど前の昭和十五年（一九四〇）に、上伊那教育会が出版した「露原拾葉」（ふきはらしゅうよう）と云う書物の中に「上田軍記」が入っていることを知りました。それも、何と地元の小泉上田教育会館にもあると云うのです。問い合わせをし、早速見せていただくことが出来ました。事務のK先生にコピーまでしていたら、家に帰って私の解読したものに合わせてみると、写し手によって微妙に違っているとあることや「露原拾葉」に所載されたものが一番内容が整っていることなどが分かりました。このまま「自分一人喜んでるのは申し訳ない。広く皆さんにも読んでいた

だこう」と思い、「落原拾葉」所載の「上田軍記」を底本とし、北条家本・清水家本他を参考にしながら現代語訳に挑戦することになりました。しかし、これがまた思いの外難しく手間取ってしまいました。敬語の使い方が統一されていないこと、繰り返し同じような接続詞が出てくること、言葉を補わないとうまく意味が通じない箇所があることなどによってです。

原稿がまとまりかけた七月のある日、上田市立博物館の館長さんにお会いした際、たまたま「上田軍記」の現代語訳に挑戦している」と、お話ししたところ「博物館にも毛筆写本がある」とのこと。八月におじやまし、これも見せていただくことが出来ました。博物館にあるのは、長野市篠ノ井の久保田家の寄贈本でした。これも、毛筆写本です。

そんなことをしている内に、ところで「上田軍記」を書いた人物は一体誰で、いつ頃のことなのだろうという疑問が沸々と込み上げてきました。調べてみましたが、これが必ずしもはっきりとし兼ねています。松代藩真田家で、家臣の桃井亦七郎友直に命じて、真田家の家記「滋野世記」(全四十巻)という書物を編纂させたのは、享保十八年(一七三三)。その最後の二巻が件の「上田軍記」であったと云います。しかし、残念なことに「滋野世記」は現在、後半

の二十巻の存在が不明になってしまっているのです。桃井亦七郎が編者であることを重視すると著者は別におり、成立もさらに遡るということにもなりますが、「上田軍記」が「或る記によれば」とか「一説に」とか書かれ、ひたすら史実に近づけようと云う著者の思いが伝わってくることを考えると、やはり書いたのは桃井亦七郎としてよいのではと思われまふ。

真田家の家記である「上田軍記」がどの様な経過で庶民の目にふれる様になったかについては定かではありませんが、民間の識者によって筆写が繰り返され広く読まれ、人々に夢を与えてきたのです。

どこからどう聞こえていったのでしょうか、九月と十月にNHK大坂の取材があり、十一月には「その時歴史が動いた」で上田合戦と真田昌幸父子の活躍、それを支えた地侍や農民の姿を取り上げていただくことが出来ました。また、この一文を皆さんにお読みいただく頃には、「上田軍記」の現代語訳が「信州上田軍記」として書店に並ぶことになっています。よろしかったら古里を思い出しながら、お読みいただければと思います。

会員の皆様のご健康・ご多幸を、信州上田の地で心よりお祈りしております。
(去る十一月二十二日(水)のNHK

番組「そのとき歴史が動いた」の一場面に本稿を寄稿いただいた”堀内 泰”さんが登場されました：編集部註

感動

曲尾出身 丸山 廣義



久保田万太郎氏の作に「走馬燈いのちを賭けてまはりけり」と言うのがあります。人の心にいろんな風情を思いださせてくれます。そしてこの走馬燈は夏の季語でもあるわけですが、この夏、野球を良く知らない人もテレビ画面に見入った方も多かったかと思えます。劇的な場面が多く、正に野球の醍醐味であるホームランも例年より多く、特に決勝再試合の激闘を戦った、早稲田実業、駒大苫小牧戦の一投一打は多くの人々に感動と糧をもたらしてくれたと思います。

私もその一人ですが、このように若い人達が物事に真剣に立ち向かう姿。私の心に残るもう一つの感動をご紹介します。

学生達の夏休みも終わった昨年の九月の初めでした。東京のある会場で、高校生の弁論大会があり来場した時のことです。それぞれの弁士が己の主張、社会への不満、理想の社会等熱弁を振っていました。私はそれらの熱弁に感心して聞き入っていたのですが、その中で体の不自由な弁士が、己の生きざまを切々と訴え、心の弱さ、社会からの迫害、将来の不安、希望等を述べていました。私はこれらの訴えを聞きものすごく憤りや、

又一方で感動を覚えていました。この感動が昔を思い出したので。私が東京の大学へ入学した時です。その昭和三十年の春のことです。その大学の主催で毎年全国高等学校弁論大会が開かれています。そこでやはり身障者の弁士が「心の不具者たるなかれ」と題して、今回の弁士と同じ様な内容で熱弁され、その場でも涙が出る様な感動を受けました。

そして締め括りとして、人間はいろんな環境の中で育ち、十人十色と言うほどいろんな生きざまがあります。自分自身、身障者だからと言って諦め、親のせい、世間のせいにしてたりして障害を持つて生まれたことに負けて心の中まで不具者にしてはいけない。「心の不具者たるなかれ」と結んでいました。

今又あの時の感動がこの胸に熱く蘇って来ました。五体満足な私達、二人の若い高校生に負けぬ様「心の不具者たるなかれ」と、心の中に深く刻みたい言葉です。

旅って楽しい

萩出身 佐藤 昌江



「ごめん！遅くなっちゃって、電車に乗り遅れちゃった！」相変わらず時間ぎりぎりに行く私に姉はハラハラと待ち草臥れていた。ほっとして新宿駅の四番ホームに並んで大宮行きの電車を待つ。新睦一泊旅行で集合場所になっている大宮パレスホテルの前へいくために……。10分程で電車が来た。今回は鹿教湯温泉「鹿鳴館」が旅行先。一緒に行く金ちゃんとは来ていた。同級生の金ちゃんとは昨年も行つて楽しい思い出をつくっている。それで今年もと言うことになった。

九時発のバスが動き始める。誰とはなしに、田舎弁での会話が始まる、笑い声が賑やかに明るい。

川越ICに入りバスはスピードを上げて行く、何度か、サービスエリアで、小休憩をしながら東部の湯の丸ICで降り、東御市のおいしいそばで有名な「草笛」で早目の昼食を取り、152号線、254号線を経て一夜の夢を結ぶ「鹿教湯温泉」を素通りして三才山トンネルを抜けて安曇野のワサビ園へ、ここでお土産を買ったり、ワサビアイスクリームを食べたり、ワサビ田を見たり、ゆっくり時を過ごす。

バスの窓で松本城を見て、又もと来た道を通り鹿鳴荘に到着する。早速に温泉で温まり心身共に旅の疲れを癒す。

鹿教湯の由来は、鹿に身を変えて信心深い猟師に効能豊かな出湯を教えたと言う、湯治場としても有名で、リウマチとか神経痛などに効き目がある。何日も湯治に来ている人も多いと聞く。

鹿鳴荘は山に囲まれた感じのする旅館で静かな佇まい。それほど多くの人々の行き交うこともなく自然の中にとけこんでいる。近くに流れる内村川の溪谷は、五台橋が架かっていて紅葉などの景色を楽しみながらの散策が出来る。又十二月〜二月にかけて、多くの氷の灯ろうを並べ火が灯されて光が映し出されて冬の美しい夜景が見られるイベントがあるとのこと、

一度見てみたいものです。

六時より宴会場に皆さん集まり、そして宴が始まる。地元で取れた秋の味覚の膳に魅せられながら味わい、酒に微酔い、歌が流れ座が笑いの輪になってゆく、楽しい一時がゆつたりと旅を味わいながら夜が深まって行く。

翌朝、九時に海野宿へと出発する。海野宿は重要伝統的建造物群保存地区になっていて、寛永二年北国街道の宿駅として開設された、両側の格子戸の家並みは宿場時代の建物と明治時代のなごりをそのままに残されている「卯建」海野

格子「出桁造り」^{でげたつく}「気抜き」と今では見かけない家々の作りをそのままに現在の人々の生活が色々なお店として営まれていく。早朝なのと時間がないのとで見学があまり出来ず心残りでした。

次の見学は、蜂天国へ、これはお見事！スズメバチの芸術品、新幹線、富士山、スペースシャトル、ナイヤガラ滝など8万匹の蜂達の作つたりつばな作品ばかり、奇作、傑作の蜂の巣に圧倒されるが蜂とお別れ、漬物工場、ワイン工場は微酔気分で見学。

横川で「おぎの家」の釜飯で昼食、あいも変わらず人気のある釜飯を大勢の人が買っていた。

横川を出発して一路大宮に向かつて走る。松井田ICで関越道に入り、川越ICでおり、大宮駅近くにあるパレスホテル前でバスを降りる。二日間の旅行は楽しんで終わってしまいました。手を振りあつてお別れです。有難う御座いました。

いつまでも続けたい

ゴルフと芝の上散歩

田中出身 佐藤 宏次



ゴルフを始めて30年、この間のゴルフとのお付き合いを記憶と記録からまとめてみました。昭和51年32才で筆卸をしてからゴルフと共に過ごした人生を振り返り、気ままに書かせて頂きます。文章がまとまらず読みにくいかもしれませんがお許し下さい。

30年の間に、ゴルフを通じた人間関係が拡大し、それぞれの仲間の中で楽しいお付き合いをさせて頂いております。ゴルフに出掛けるに当たっての優先順位は、会社

の業務を第一としてきましたが、今後サラリーマンを卒業した後は、個人の年間行動計画を作成し、家庭の行事日程を最優先にしように考えております。今後も続けたいゴルフ上での付き合いの範囲をあげてみますと、社内コンペから始まり、同僚・OB・町内会同好会・同窓会・同級会・スポーツクラブ同好会・加入倶楽部月例会・加入倶楽部内独自コンペ・真田町会等々。

それぞれの集まりに参加する楽しみは、懐かしい面々と再会し、昔話に花を咲かせることもありませんが、まず第一の楽しみは、18ホールのゴルフ中に好プレー、珍プレーが毎回発生することだと思えます。楽しみのスタートは、前日の夜から始まり、作戦？を考えたり、自分の好プレーをイメージしたりし始めると眠れなくなり翌朝は、かなり早くから目が覚めてしまふ事がゴルフを始めた頃からずっと続いている。

ゴルフ場では、寝不足状態でプレーが始まるが、具体的な楽しみの第二は、スタートのティーショットの緊張感がなんとも言えない。練習の成果を出そうと思ひ、幾つかの独自の注意事項を守り第一打から始まり、その時のショットが良ければ、当日のゴルフの楽しみの一は達成です。あとは、2打目、3打目、パ

ットと続きますが、その中でも、狙い通りにボールが打てれば最高です。

楽しみの第三は、素人がそんなに安定して良いショットが出る訳がありません、でも時には、ミスショットがナイスショットになる事が多々あり、打数を増やさずにホールアウトする事が良くあります。コースを外れて林に打ち込んでOBと思つた瞬間、木に当りフェアウェイのど真ん中、アプローチの打球がオーバーしてしまつたと思つたグリーン奥にある大きな木に当り、グリーンにナイスオン、ティーショットをミスしたと思つたら、カート道路のコンクリートに当たり跳ね返つたボールがフェアウェイど真ん中250ヤードショットなど、ツキの有無も楽しみみです。

第四は、近所のゴルフ練習場でドライバーから始まりアイアンまで納得がいくまで、じっくり打ち込みの練習をして、ティーショットは、一番最初に打ち、誰よりも遠くへ飛ばし、2打目以降は、最後に打ち、グリーン上のカップへ最も少ない打数で入れる。この理想に近づけるよう努力を続けながらお付き合いをして楽しんでおります。

現実には、中々理想とはかけ離れており、前記したラッキーショット

トの裏があり、ティーショットは、飛距離が出ず、曲がつてしまい池へ、谷底へ、林の中へ、バンカーへと、とんでもない事が連続して起こることがあります。やつとたどり着いたグリーンには中々ボールが載らず、載つた後のパットが中々入らない。でも、こんな暗い現実を恨まず、何回かに1回出る好プレーを楽しみにし、まだ実現していない「ホールインワンを何時か出す」事を夢見て、乗用カーが整備されたコースでも、ゴルフのときは歩行主義を徹底し、今後もずっとゴルフを続けたいと思います。

以上

信州真田の郷へ

りんご狩り

入軽井沢出身 安田 美智子



“信州真田の郷”りんごの木、オーナー募集をみて、二年前より我が家の一大イベントとして続け

ています。りんごは知っていても木になつてゐるりんごは、みたことがない子が、沢山います。我が家の孫達が、そうですが！、初めての年のこと、感動と興奮で大変でした。落さないように怖くてなかなか枝から外さない!!木になつてゐるりんごに、かぶりつく子!!四人の孫達、それでも楽しかったようです。なんといつても取りたては、美味しいですね、りんごで、お腹いっぱいになつた後、管平スキー場に登り、ソリに乗つて滑り降り、親達も、ダンボールを尻にあて、痛いと言ひながら、暗くなるまで楽しんで来ました。遊び疲れた体を、真田温泉に入つて暖め、夕食は霧隠そばで、なんとも楽しひ、りんご狩りの一日でありました。遊び疲れた孫達も、早々に布団の中、夢は、きつと大きなりんごに、かぶりつき!!それとも、ソリで坂を滑り下りてゐるのかな!!一泊二日の旅は忙しい。朝から墓参りを済ませ、真田中学校でお世話になつた、赤井にお住まいの小林良一先生宅にお邪魔して、奥様の仏前に、お参りさせていただき、久しぶりに中学時代のお話、写真を見せていただいて、又の再会を約束し先生のお宅を後にして、

(17ページへつづく)

第十九回総会・懇親会のご報告



副会長・事務局長 山口元彦

盛大な総会おめでとうございす。会員の皆様の故郷への並々ならぬ想いが感じられます。

合併により、北は菅平高原から南は美ヶ原高原に至る、しかも日本の真ん中に位置する、新しい上田市が誕生しました。行政事務のほとんどは従来の各市町村役場で行われますので、地域の皆様にご不便をおかけすることはないと思います。どうか温かく見守って下さい。

伝統ある真田氏発祥の地を故郷とされる会員の皆様のご健勝をお祈り申し上げます。

【中島新会長の就任挨拶概要】

先輩たちが築いて下さった素晴らしい会を壊さないよう努力し、また、「真田町」としてのつながりを大切にして、会員の皆様に参加して楽しかったと感じていただける会にしたいと思いますので、よろしく願っています。

(註) 中島新会長は戸沢の出身で、世田谷区の少年サッカー連盟役員等多彩な活動経験があり、当初の女性会長として、会の活性化のためご活躍いただけるものと期待されています。

【絵と花束の贈呈】

一 開催日、出席者数等

【開催日】平成十八年六月四日(日)

【場所】アルカディア市ヶ谷富士の間

【出席数】会員七十九名、市から十二名(バス運転手を含む)

二 総会の部

【式次第】①「信濃の国」斉唱、②会長及び上田市長の挨拶、③平成十七年度会務報告、会計報告及び監査報告の承認、④役員改選(新会長に中島正江前副会長のほか、後掲「役員名簿」記載の役員を選任)、⑤平成十八年度事業計画及び予算の決定

【塩沢和政会長の挨拶概要】

新生上田市の誕生おめでとうございす。いろいろな行事でご多忙な中を、助役様・副議長様を始め多数の方々にご参加いただきありがとうございます。

懇親会では、おおいに飲みかつ食べて、楽しくお過ごし下さい。出席者のご健勝を祈念いたします。

【上田市長挨拶(石黒豊助役が代行)の概要】



- 1 会から上田市(真田地域自治センター)に、上田高校卒業生である波田野浩雲氏作成の「真田幸村公像」木版画を贈呈しました。
- 2 退任された塩沢前会長に、理事一同から花束を贈呈しました。
- 三 懇親会の部

【小林孝雄顧問の歓迎の挨拶】

本日は、新上田市発足後の総会・懇親会であり、また当初の女性会長が誕生した、歴史的な日です。上田市の広報によると、市内在住の外国人は六千三百人と、全人口の四%を占め、日本全体の一・二七%を大きく上回っており、外国人にも好かれる町だということが分かります。県人会などでの催しでも、小布施の栗ようかんや信州そばが大人気です。今後も故郷を大事にし健康に留意して、会合に出席しましょう。今日は楽しくお過ごし下さい。

【土屋陽一上田市議会議長の祝辞(藤原信一副議長が代読)】

第一九回総会にお招きいただきありがとうございます。盛会をお祝い申し上げます。

旧真田町は新生上田市の一部となりましたが、日本ダボス、レタス、真田氏の伝統などの産業・文化は、市の新しい財産です。

今は、新市の一体感を醸成することが急務です。東京真田町の会の皆様も、故郷の発展のための意見・提言とお力添えをお願いいたします。会の発展と会員の皆様のご健勝



をお祈り申し上げます。

【半田幸弘氏の乾杯の音頭】

私は八十二歳ですが、しょっちゅうゴルフをしています。皆様も健康を維持して、今後ともご参加下さい。会員の皆様のご健勝をお祈りして乾杯しましょう。

【アトラクション】

新舞踊の千花 津（センハナシン）さんとお弟子さんたちに、江差追分、望郷しょんがらなどの踊りを披露していただきました。

【隠し芸大会】

今年も多くの方が自慢のものを披露してくれました。

特に、野村勝太郎会員の「小諸馬子歌」は、故郷ののどかな情景を思い浮かべさせてくれました。

真田中学校世代も、昨年に続き、八木五郎会員の安木節、安田美智子会員指揮によるフォークダンス？で盛り上げました。（本稿執筆者もそれに駆り出されたため、他の会員の芸を鑑賞できず報告不能となりましたことをお詫びいたします。）

【大団円】「真田郷」の輪踊り、大塚貢上田市教育委員長及び杉崎寿三男会員の音頭による万歳交換をし、市からの参加者は帰路につかれました。会員はその後もしばらく歓談を続け、輪になって「ふるさと」を斉唱した後、堀内幸理事の閉会の挨拶によりお開きとなりました。皆市からのお土産をいただいて、秋の旅行会への参加や来年の総会での再開を約束しながら、解散しました。



各部の活動報告

☆ 親睦旅行

期日：18年10月20日～21日
参加者：男13・女7・計20人
行程：

1日目 大宮駅西口大宮ソニックス前(9:00)↓川越IC(関越・上信越)↓東部IC↓東御市(昼食)↓鹿教湯温泉↓三才山トンネル↓大王ワサビ園↓松本城↓三才山トンネル↓鹿教湯温泉「鹿鳴荘」着(16:30)宿泊

2日目 鹿教湯温泉(9:00)↓海野宿↓蜂天国↓漬物工場↓ワイン工場↓横川おぎのや(昼食)↓松井田(上信越・関越)↓川越IC↓大宮駅西口着(16:00)

担当理事 金子誠

紅葉には少し早いふるさと信濃路の旅でしたが、予定を変更して立寄ったそば処「草笛」のお蕎麦は絶品でした。

大王ワサビ園の水車、清流の広大なワサビ園、秋色に染まっていたコスモスが美しかった鹿教湯温泉の路傍、静まり返っていた海野宿の佇まい、静かな秋そのものだった小諸のワイン工場周辺、田舎言葉が自然に飛び出すバス旅行：同行記者は本当に心が和みました。(武捨記)



2006. 10. 5 雨のレイクウッドGCにて



2006. 10. 20 大王わさび農園にて

☆ スポーツ

◎ ゴルフ同好会

恒例の春季親睦ゴルフ大会は4月5日、富岡CCで開催された。参加者22名(会員14名故郷から8名)、天候は雨で我慢の一日でした。入賞は優勝：宮澤達人、準優勝：横沢武典、三位：久保孝則、ベスグロ：堀内 政、女性・シニア部門賞：半田幸弘の各氏でした。

また秋季親睦ゴルフ大会は10月5日、レイクウッドGCで開催、会長交代も、開催曜日変更の効果も無く田植えゴルフの一日でした。参加者は真田町から参加の7名を含め総勢21名で、優勝：宮澤達人(3連勝)、準優勝：堀内 政、3位：永井哲夫、ベスグロ：飯島慶三郎、女性・シニア部門賞：堀内福の各氏でした。

担当理事 堀内 福、萩原啓治

◎ マレットゴルフ

秋の大会は10月28日、11名(男性5、女性6)の参加を得て新座のいつものマレットゴルフ場で開催、優勝：滝沢けさ子、準優勝：大久保治夫、三位：武田守央の各氏でした。

来春は5月中旬に開催の予定です。担当理事 萩原啓治



2006. 10. 28



2006. 10. 28

(12ページから続く)

地藏温泉十福の湯につかり、一泊二日のりんご狩りから、一路、成田に向う車中は、りんごの香りと土産に買った、新鮮野菜、漬物、きのこ、味噌、凍み豆腐、霧隠そば等で、車は傾いています。孫達は皆、疲れて夢の中zzzz・・十一月は又、信州真田の郷へ、孫達四人つれて、りんごの収穫に行ってきます。

会長退任ご挨拶

顧問 塩沢 和政
(大日向出身)



東京真田町の会の皆様に於かれましてはお元氣にお暮らしの事と拝察いたします。

さて私は去る6月4日に開催された第19回東京真田町の会総会において会長を退任して顧問に就任しました。

思い起こしますと、昭和63年9月10日池之端文化センターに

において東京真田町の会の設立総会が開催され出席したのが懐かしく思い出されます。そして毎年、真田祭り、ふるさと訪問、町民ゴルフ大会などのように参加させて頂きました。

私は平成14年6月16日の東京真田町の会第15回定期総会の役員改選で会長の大役をお引き受けいたしました。その後の会の運営に当っては真田町当局のご支援とご協力をいただき、会員、役員の皆様のご協力により大過なく任務を遂行する事が出来ました。本場に有難う御座いました。

世の中も大きく変わりつつあります。今年は真田町に取りましても大きな変化の年でした。去る3月6日上田市、丸子町、武石村と合併して新生上田市が誕生しました。私もこれから健康に留意して会の行事に参加したいと思えます。

来年は東京真田町の会も第20回の総会を迎えます。東京真田町の会の益々の発展と会員皆様方のご健勝を祈念して、退任のご挨拶といたします。

同級会の思い出

横沢出身 廣川 雅子

10月9〜10日と真田町の四阿高原ホテルで、中学三年時の同級会を開きました。昭和31年に、長傍陽、本原、の中学が統合に依り真田中学が誕生し、私達が、第1回目の卒業生でした。たった一年間一緒に学んだクラスでしたが、とても、まとまりが良く卒業後も毎年開いております。



拝むことができました。

東京真田町の会の理事だった塚田恒雄さんも同じクラスでしたが、あまりにも急に他界されてしまい本当に残念です。行動力があり、信頼して頼れるメンバーで、沢山の思い出を残して逝かれました。今までに2回、東京でも開催し初回は歌舞伎座観劇と銀座でのお食事、2回目は中学時の修学旅行の再現をと、皇居、江の島、鎌倉めぐり、当時と同じ場所での記念撮影等々、塚田さんの企画が懐かしい思い出となりました。

今は、私の郷里も既に両親もなく淋しくなりましたが、故郷を愛し守りながら、毎年元気で私たちを暖かく持て成し迎えてくれる、地元と同級生に、感謝、感謝です。

人生の達人

コーナー

むぎまき

十林寺出身 坂口 豪

山合から薄日がさし
ささやか北風が秋をつけ
肌を打ち身にしむ

紅く、色づいた木々の向こうに白い煙を上げている浅間山等、ホテルからの眺望は美しく秋の景色でした。ホテルに到着、地元の方々が持ち寄ってくれた、煮物、漬物、果物等を美味しく戴きながら、1年振りの再会を歓び話に花が咲きました、お腹がいっぱいになると、山へきのこ採りに行く人たちが、お風呂で疲れを癒す人たちと、夜の宴会に向けて用意万端。待つてました、ホテルの料理で賑やかな宴会、続いてカラオケ、さらに部屋に戻っての小宴会、時の経つのも忘れ大いに旧交を暖めた一夜でした。

翌朝は、露天風呂より日の出を

今日は朝から野に出て
広い田圃の生土ふんで
精出す親子

親は返して子はくね打って

広い田圃のむぎ蒔すます

やっとすんだと見上げる空は

明日も天気か夕陽が赤い

大空にたなびくとぎれとぎれの

白雲の切れ目から

トンビが輪をかいて鳴いている

自然な清らかな眺めである

黄昏の夕暮は静かにくれてゆく

われ一人

野の牛も耕す人もうちつかれ

小足で急ぎ帰る行く

立冬も近い一家団らん夕べ

私の拔書き・

随筆・小作品

萩出身 柳沢 實

道標

一、人はそれぞれ与えられた条件
の中で自分らしい生き方を模
索するしかない、それが生き
ることの現実だから

一、人生八十年、ふり返ればつか
の間

一、才能とは継続する情熱である

一、老いることは孤独との戦とみ
つけたり

一、忍耐は辛い、されどその実は
甘い

一、耐えた者ほど優しくなれる

一、チャレンジは何時しか心の財
産となる

一、人生とは戻れぬ旅

男と女

一、好きな人を想う程心を熱くし
て呉れるものはない

一、変わり易いのは男心と秋の空
解りにくいのは女心と秋の空

一、燃える恋、移ろう愛

一、いま、エロスは満たされてい
ますか

花 四季の山

一、梅ほころぶ 桜ひらく

一、沈丁花：七里香 金木犀：九
里香

一、春の山笑う 夏の山歌う

一、秋の山装う 冬の山眠る

色 種々

一、鶺鴒ヒナ色：明るい黄緑

一、鶺鴒トキ色：淡い紅色

一、鶺鴒色：茶褐色

一、鶺鴒色：くすんだ黄色

一、山鳩色：灰色をおびた緑色

一、雀色：夕暮れ時の形容

雑感

萩出身 柳沢 喜二郎

一、①憲法に平和憲法で戦争放棄
を定めているから戦争はな
い？

②憲法で台風は来ないと定め
てあるから台風は来ない？

二、殷艦遠からず、夏後の世に在
り

(殷艦遠いんかんからず、夏後かこうの世に在り…
自らの行動を戒める事例は、すぐ手直
な処にあるという中国の諺：ルビ・註
は編集部)

①条約は破る為にあるもの
昭和二十年八月九日、ソ連は一
方的に、日ソ中立条約を破り、日
本に攻撃開始、六十一万人の日本
人をシベリヤに抑留酷使、約六万
人死亡。北方四島は？

②小切手外交で日本の安全は
確保可能？

三、
年令をとると親の言行が良く
理解出来るようになる。後悔の念
しきり。

子養なわんと欲すれど、親いま
さぬぞあわれなり。

ふるさとの生活

顧問 三井 芳郎
(上田市真田町在住)

ユーターンして三年が経ちまし
た。日々の生活の中で感じたこと
を短歌にしましたのでご紹介いた
します。

- (1) ふるさとの山の谷間を鶺鴒の声
聞きながら更に歩まん
- (2) 山寺の鐘の音聞こゆる雪の朝
東の空は茜に染まる
- (3) やつときたる天満宮のお社に
九月十日を涙で吟ず(博多に
て)
- (4) 知覧にて特攻の士を偲びつつ
涙にむせぶ老人の旅
- (5) 原爆の恐ろしさ見る太郎の繪
明日の神話を語りて止まぬ
- (6) 野尻湖でマンモス像を見学す
見上げる勇姿は四万年前
- (7) 夏祭り子供御輿に鉄砲隊花火
満開半月のぼる(真田祭り)
- (8) 石垣の小花残して草刈す赤麻
見つけて戦時を偲ぶ
- (9) 収穫の前夜にたつぷり水をや
り初取り西瓜たたく音良し
- (10) 中秋の名月照らす庭の隅孫達
眠るテントは静か
- (11) 同期会の友八人のサイン入り
色紙かざして喜寿の祝す

会員の皆様の 近況報告抜粋

(出身区・旧姓)

1 荒木廣之(横沢)

京都に出張の為、都合つきません。悪しからずご容赦願います。

2 飯島慶三郎(下原)

持病の喘息が激しく、皆さんにお会い出来るのを楽しみにしていましたが残念です。

好きなゴルフの回数も減りさみしく思っていますがパソコンで世界中の人と暮を楽しんでいます。

来年は体調を整えて、皆さんとお話が出来るのを楽しみにしております。

3 柴田小夜子(菅平・市村)

いつも皆様にお会い出来る事を楽しみに総会に出席させていただいております。

なつかしい方のお顔を想い浮べながら楽しみにしております。宜しくお願い致します。

4 内海辰三(大庭)

当日は都合つかず、欠席させていただきます。

会の盛会と会員の御健勝をお祈り申し上げます。

5 大庭今朝女(大日向・大久保)

年に一回の真田町の会、健康に恵まれ、今年も参加できることの幸福を実感している今日この頃です。

皆様にお会いできる時を楽しみに

に致しております。

6 岩井泰子(中原・荻原)

寒かったり暑かったりの不順な天候もようやく落ち着きさわやかな新緑の季節となりました。

役員の皆様にはいつも会の為に尽力下さいます。ありがとうございます。なつかしい故郷の皆様にお会い出来るのを楽しみに出席させていただきます。

7 木南和世(中横道・堀内)

年を重ねるごとに郷里の山々、食物、人々等、懐かし、街の長野産物にも、ふっと足を止めてしまします。

8 久保新一(角間)

皮肉なことに真田町が無くなった初めて真田町の会に出席する気になりました。よろしくお祈りします。

9 杉崎寿三男(菅平)

新生上田市真田町として記念すべき第一回目でもあり、楽しみにして出席をしたいと思ひます。

10 武田守央(真田)

毎日元気で過しております。出席の予定で下りましたが、行事がはいってしまい欠席させていただきます。

真田町の会の益々の御発展を願っております。

11 中沢欣勇(下横道)

日頃は役員の皆様には本当に御苦勞様です。感謝申し上げます。本年は都合よく出席出来そうに嬉しく存じて居ります。昔の色々

な事が走馬灯のように浮んできます。年のせいかな？

12 橋詰吉万雄(中組)

今年も4月13日毎年恒例になつていて小学校時代の同級会で上山田温泉に行つて来ました。一泊して翌日は2ヶ所程寄道をして塩田から上田駅の途中で見たあの懐かしい烏帽子岳はまだ残雪で真白でした。今年も元気で参加出来た事に感謝しつつ、そして東京真田町の会にも元気で参加し、皆様にお会い出来る事を楽しみにしております。

13 半田幸弘(中横道)

いくら老齢化したような感じがします。毎月菅平高原には温泉関係会社役員として出張しています。

14 井上かつよ(田中・堀内)

役員の皆様御苦勞様です。例年になく寒い日々でしたが、ようやく若葉の季節になりました。

一人でも多くの方にお逢い出来る様楽しみに出席させて頂きますので、どうぞ宜しくお願い致します。

15 堀内寅次(中横道)

上田市と合併おめでとうございました。(真田町)の名前は残りしましたが、いつ迄も残して頂きたい名前です。

楽しみにしております。

16 堀内 幸(下横道)

たとへてもらいてえだでえしみだわい

17 真下幸江(中横道・堀内)

いつもお世話になっております。

済みませんが振替用紙が入っております。送っていただきたいと思ひます。

18 丸山廣義(曲尾)

今年には古希を迎えます。元気で皆様方とお逢い出来ることを楽しみにしています。

19 壬生とりよ(戸沢・宮島)

生まれ育った故郷は年を重ねるごとに懐かしき思い出されます。会の発展と皆様の御多幸をお祈りいたします。

20 武拾衛人(中組)

電位治療器の威力を実感し、加齢の重みを忘れていきます。

21 宮田マキエ(戸沢・柳沢)

体調が悪いため欠席いたします。どうぞ皆様によりしくお伝え下さい。皆様の御健康をお祈りいたします。又お会いする日まで

22 柳沢 實(萩)

何時も皆様にお世話になります。私達小学同期の会が今年も東筑摩郡筑北村営「かむりき荘」で行われ20名弱の仲間と旧交を温めてきました。信州の春は遅く桜はつぼも探すのが大変、途中駅の高崎付近が満開、季節の移ろいだけは確実です。この年齢になりますと仲間との語らいだけが心を満たしてくれま

23 柳沢保治(真田)

総会欠席は年会費の未払いとなり、恐縮です。千円だけでも振込めるシステムになるといいですね。会長本当にご苦勞様です。

～会員消息～ (敬称略)

<新入会員>

石巻 哲夫	〒156-0055	東京都世田谷区舟橋 6-13-3	TEL03-3304-4115	(曲尾)
内海 宏光	〒386-2203	長野県上田市真田町傍陽字宮ノ前 6345-4	TEL0268-73-2232	(大庭)
小山 末江(牧内)	〒277-0034	千葉県柏市藤心 4-5-9	TEL04-7173-0380	(萩)
佐藤 伸男	〒424-0841	静岡県静岡市清水区追分 1-4-6	TEL0543-65-4758	(下郷沢)
塩沢六士郎	〒156-0045	東京都世田谷区桜上水 2-19-23		(大日向)
関谷トヨ子	〒230-0076	神奈川県横浜市鶴見区馬場 4-12-17	TEL045-574-2204	(戸沢)
萩原 清人	〒177-0032	東京都練馬区谷原 5-20-4	TEL03-3867-4645	(萩)
平林富士子	〒135-0016	東京都江東区東陽 3-22-2-6	TEL03-3645-0182	(荒井)
葉袋マチエ(堀内)	〒336-0026	埼玉県さいたま市南区内谷 4-14-33 #102	TEL0488-63-4361	(大日向)

<氏名変更>

山田 優佳(横沢)	〒351-0007	埼玉県朝霞市岡 3-10-50	TEL048-461-5393	(大畑)
-----------	-----------	-----------------	-----------------	------

<住所変更>

石井寿恵子(戸谷)	〒286-0221	千葉県富里市七栄 170-10	TEL0476-93-3649	(赤井)
石橋 敏子(高寺)	〒116-0014	東京都荒川区東日暮里 1-4-6	TEL03-3806-0988	(竹室)
大久保正寿	〒359-1145	埼玉県所沢市上新井 286-01	TEL04-2923-4423	(大日向)
勝田 昭子(堀内)	〒341-0035	埼玉県三郷市鷹野 5-296	TEL048-955-2662	(田中)
川上 年美(宮崎)	〒164-0012	東京都中野区本町 5-26-6 城西中野ハイツ 303	TEL03-3380-7310	(菅平)
小市 益雄	〒277-0943	千葉県柏市高柳新田 143-22	TEL0473-86-9044	(荒井)
鈴木 敏夫(坂口)	〒286-0212	千葉県富里市十倉 732-19	TEL0476-93-2318	(下原)
真下 幸江(堀内)	〒270-0213	千葉県野田市桐ヶ作 1251-37	TEL04-7196-2337	(中横道)
依田 澄子(堀内)	〒344-0041	埼玉県春日部市増富 158 とよはる台サンハイツ G103	TEL048-752-7791	(下横道)

<番地訂正>

斎藤かね子	〒349-0101	埼玉県蓮田市黒浜 1310-66	TEL0487-68-5407	(上横道)
-------	-----------	------------------	-----------------	-------

<退会> 長い間、会に御協力下さり有難うございました。くれぐれも健康にご留意下さい。

赤岡 貞重・天野 清子・石巻 正一・木島 豊禧・末廣 宮子・中山 栄子・野本 幸子・橋詰 照雄・
 広田 初江・堀内 勲・堀内 今代・山崎 浦子・横山 清美・吉田 越子

<逝去> 会員一同、心よりご冥福をお祈り致します。

上原 則登・小林 芳高・西牧 洋一・堀内 良幸

<転居先不明>

神林 祝子・坂口 雅彦・高寺 正興・戸谷 巖・西村 セツ子・半田 忠司・三井 一郎

次回総会の予告

平成19年の総会、懇親会は6月10日(日)、アルカディア市ヶ谷(私学会館)で開催の予定です。大勢の会員の皆様のご出席を頂きますようお願い申し上げます。

詳しくは4月に発行の「しらかば通信」第11号でお知らせいたします。

年会費納入のお願い

平成18年度の年会費千円を未納の方は、同封の郵便振替用紙にてお振込み下さい。振り込み料は無料です。よろしくお願い致します。

広告御礼

日本ダボス第19号の発行にあたり広告をお願い致しましたところ、大勢の皆様のご協力を頂きました。大変有難く、厚く御礼申し上げます。

新会員ご紹介のお願い

会員の皆様にはいつも会の運営にご協力頂き誠に有難うございます。会員相互の出会いと親睦、そしてふるさと真田町との交流の親密化を目的に誕生した東京真田町の会も、一八年余りの歴史を刻み先輩役員のご努力、会員の皆様のご協力、そして真田町当局のご支援により一人前の同郷会に成長しつつあり、ご同慶の至りでございます。

この東京真田町の会が更に充実し、発展し続けるためには会員の増加が何にもまして重要と思われまします。皆様の友人、知人の中に東京真田町の会の会員に推薦できる方が居られましたら、会長または役員まで是非ご一報頂きたく、よろしくお願い申し上げます。

連絡先 中島 正江

TEL 158-0091 東京都世田谷区中町四一三五―一七E
 FAX 03-3702-1385

平成17年度 決算報告書

H17年4月1日～H18年2月20日

(単位：円)

収 入 の 部			支 出 の 部		
科 目	予 算	決 算	科 目	予 算	決 算
通常年会費収入	650,000円	249,000円	総 会 費	1,200,000円	1,036,416円
総会懇親会費収入	1,200,000円	1,018,000円	会 報 発 行 費	500,000円	430,000円
真田町補助金	300,000円	300,000円	事 業 費	500,000円	81,535円
広 告 収 入	750,000円	405,000円	事 務 通 信 費	400,000円	264,414円
寄 付 金 等 収 入	150,000円	— 円	印 刷 費	200,000円	15,750円
利息等雑収入	75,817円	6円	会 議 費	250,000円	110,670円
			渉 外 費	150,000円	102,187円
			交 通 費	100,000円	10,660円
			雑費・手数料	50,000円	11,830円
			予 備	150,000円	— 円
当期収入合計		1,972,006円	当期支出合計		2,063,462円
前年繰越額	374,183円	374,183円	次期繰越額		282,727円
合 計	3,500,000円	2,346,189円	合 計	3,500,000円	2,346,189円

上記の通り収支決算報告いたします。平成18年2月20日 会 計 堀内 寿美 印

上記の決算報告書は適正かつ真実であるものと認めます。 監 事 深町 共栄 印

監 事 小林 正子 印

平成18年度事業計画

- | | |
|--|-----------------------------------|
| ① 第19回総会及び懇親会の開催（平成18年6月4日） | ⑥ ふるさと訪問の実施 |
| ② 会報「日本ダボス」第19号の発行 | ⑦ ふるさと特産品の宅配協力 |
| ③ 広報紙「しらかば通信」の発行 | ⑧ 真田地域との交流促進のため、各種文化・スポーツ行事の実施と参加 |
| ④ ホームページの運営 | ⑨ 会員の店マップの発行 |
| ⑤ 会員旅行会、ゴルフ会、マレットゴルフ会等会員相互の親睦をはかる行事の実施 | ⑩ その他 |

平成18年度収支予算

平成18年4月1日～平成19年3月31日

「東京真田町の会役員名簿」

(平成18年12月25日現在)

収 入 の 部		支 出 の 部		職 名	氏 名
科 目	金 額	科 目	金 額	会 長	中島正江
通常年会費収入	650,000	総会懇親会費	1,300,000	副 会 長	飯島慶三郎 山口元彦 柴田小夜子
総会懇親会費収入	1,300,000	会 報 発 行 費	500,000		
上田市補助金	300,000	事 業 費	500,000	理 事	監 事 深町共栄 堀内 幸
広 告 収 入	750,000	事 務 通 信 費	400,000		事務局長 (山口副会長兼務)
寄 付 金 等 収 入	150,000	印 刷 費	150,000		会計理事 堀内寿美
利息等雑収入	67,273	会 議 費	200,000		萩原啓治 金子 誠 木南和世 鈴木邦子 堀内 福 武捨衛人
		渉 外 費	150,000	顧 問	小林孝雄 清水清晴 三井芳郎 塩沢和政
		交 通 費	100,000		
		雑費・手数料	50,000		
前年度繰越金	282,727	予 備 費	150,000		
収入合計	3,500,000	支出合計	3,500,000		

祝

東京真田町の会 —会報19号—



ロシア料理 渋谷ロゴスキー

プラザ店のご案内

URL : <http://www.rogovski.co.jp/>E-mail : rogovski@rogovski.co.jp副社長
調理部長

長 屋 京 子

セントラル
キッチン東京都世田谷区弦巻5-14-25
☎03(3428)7284 FAX03(3426)4466
自宅 : ☎03(3428)4194

ゆったりとしたくつろぎ

アットホームなやすらぎ

シック&カジュアル

ビルの最上階は最高のロケーション。窓際のお席では
眼下に渋谷の街並みが広がります。20~25名様程の着席パーティーに最適なコーナーが
ございます。是非種々の会合にご利用下さい。室料(貸切り料)、サービス料
いっさい無し

AM11:00~PM10:00 (ラストオーダーPM9:30) 年中無休

PHONE 03(3463)3665

渋谷駅南口バスターミナル前

渋谷東急プラザ9F・味の名店街



TOY'S FACTORY

Imaginations are free and fun,
and excitements more wonderful and much greater

"発想は自由に楽しく、そして感動は素敵に、より大きく"

●Mr. Children

●Sugar

●BUMP OF CHICKEN

●ゆず

●ケツメイシ

●RAG FAIR

●ジャパハリネット

●melody.

株式会社 トイズファクトリー 代表取締役 井出 孝光

人と地球に思いやりある環境づくりを目指して

資源愛護と環境保全は企業の責任

一般貨物運送事業、リサイクル推進事業、一般・産業廃棄物収集運搬

ISO9001・ISO14001 認証取得

H14環境保全功労環境大臣賞受章

東京都知事賞 受賞・板橋区環境保全優良事業所

みすゞ興業株式会社

代表取締役 荒木 廣之 (真田町下原出身)

〒174-0041 東京都板橋区舟渡2-10-7 TEL 03(3966)2422 FAX 03(3966)2423

自宅 TEL 03(3965)4692

祝

東京真田町の会

—会報19号—

東京真田町の会 副会長 飯島 慶三郎 (下原出身) 〒180-0002 東京都武蔵野市吉祥寺東町 2-33-18 ☎ 042-221-8594 携帯 090-3514-3502 FAX 042-221-8594, 042-248-8833	土地・建物・測量・登記 飯嶋測量事務所 土地・家屋調査士 飯嶋 義道 (中組出身) 〒230-0072 神奈川県横浜市鶴見区梶山 2-38-11 ☎ 045-581-0324 FAX 045-571-8432
東京真田町の会 理事 一級建築士 萩原 啓治 (四日市出身) 〒168-0063 東京都杉並区和泉 4-42-32-301 ☎ 03-3315-5930 携帯 090-8442-2317 FAX 03-5305-3755	東京真田町の会 理事 金子 誠 (田中出身) 〒364-0035 埼玉県北本市西高尾 4-156 ☎・FAX 048-591-4728
東京真田町の会 理事 木南 和世 (中横道出身) 〒276-0031 千葉県八千代市八千代台北 7-9-9 ☎ 047-482-4528	貿易物流研究所所長 東京真田町の会 顧問 小林 孝雄 (曲尾出身) 〒234-0051 神奈川県横浜市港南区日野 4-45-5 ☎ 045-843-8041
ビューティサロン テラ 東京真田町の会 副会長 柴田 小夜子 (菅平出身) 〒155-0031 東京都世田谷区北沢 1-32-13 ☎・FAX 03-3467-4035	東京六二会戦友会会計理事 東京真田町の会 顧問 清水 清晴 (中横道出身) 〒201-0002 東京都狛江市東野川 3-12-2 ☎・FAX 03-3489-0763
東京真田町の会 理事 鈴木 邦子 (横尾出身) 〒174-0052 東京都板橋区蓮沼町 17-12 ☎・FAX 03-5970-6969	メナード化粧品 等々力駅前代行店 東京真田町の会 会長 中島 正江 (戸沢出身) 〒158-0091 東京都世田谷区中町 4-35-17E ☎・FAX 03-3702-1385
埼玉工業大学工学部電子工学科教授 東京真田町の会 理事 深町 共榮 (田中出身) 〒366-0052 埼玉県深谷市上柴町西 5-7-82 ☎・FAX 048-572-7150	齋藤指圧治療院 齋藤 勇一 (真田出身) 〒156-0043 東京都世田谷区松原 5-56-10 シャポール東松原 301号 ☎ 03-3322-6622

祝

東京真田町の会

—会報19号—

株式会社東都財務情報センター
堀内税務会計事務所

堀内 茂雄

(中横道出身)

〒130-0002 東京都墨田区業平 4-9-4

☎ 03-3625-2291 FAX 03-3621-0164

東京真田町の会

理事 堀内 福

(下横道出身)

〒350-1308 埼玉県狭山市中央 3-7-L203

☎ 04-2958-1578

東京真田町の会理事

司法書士 堀内 寿美

(上横道出身)

〒151-0053 東京都渋谷区代々木 2-20-19

東洋ビル 402 号

☎ 03-3379-9182 FAX 03-3379-8714

東京真田町の会

理事 堀内 幸

(下横道出身)

〒235-0033 神奈川県横浜市磯子区杉田 7-20-18

☎ 045-773-6733

東京真田町の会

顧問 三井 芳郎

〒386-2203 長野県上田市真田町傍陽 11510

☎ 0268-73-2616

東京真田町の会

理事 武捨 衛人

(中組出身)

〒359-1145 埼玉県所沢市山口 5040, 39-5-405

☎・FAX 04-2949-4776 携帯 080-5689-7917

国画水墨院理事

(元)日本選抜美術家協会常任理事審査員
国画院会員

森本 幹生

(入軽井沢出身)

〒211-0062 川崎市中原区小杉陣屋町 1-6-8

☎ 044-733-0267

御殿場市・小山町

長野県人会

顧問 柳沢 喜三郎

(萩出身)

〒412-0045 静岡県御殿場市川島田 748-2

☎ 0550-83-0081

新お茶の水法律事務所

東京真田町の会副会長

弁護士 山口 元彦

(横沢出身)

〒113-0033 東京都文京区本郷 2-13-10 湯浅ビル 5F

☎ 03-3815-3344 FAX 03-3815-3341



.....東京真田町の会では“ホームページ”を開設しています.....

URLは <http://www.applescience.com/sanadamachi/> です。

お暇な折に当会のHPを訪れて見て下さい。

祝

東京真田町の会

—会報19号—



勝田電設工業株式会社

電気設備工事設計施工

国土交通大臣許可（特定）第3065号

相談役 塩 沢 和 政（大日向出身）

東京真田町の会 顧問

本 社 〒132-0032 東京都江戸川区西小松川町 37 番 2 号 千葉事業所 〒273-0018 千葉県船橋市栄町 2 丁目 3 番 10 号 号
 Tel・03(3652)8676 FAX・03(3656)3360 Tel・047(437)8551 FAX・047(495)5755 i49

..... 投稿・寄稿のお願い.....

日本ダボス 20 号・しらかば通信 11 号への投稿・寄稿をお待ちしております。感想文・紀行文・思い出・近況など、日本ダボスは 2,400 字以内、しらかば通信は 800 字以内で、ご連絡は次の担当理事までお願いします。

広報担当理事 武捨 衛人

〒359-1145 埼玉県所沢市山口 5040, 39-5-405

Tel & Fax : 04-2949-4776 mail:m-musya@nifty.com

編集後記

『日本ダボス第一九号』を本日お届けいたします。少し前に誕生したつもりの東京真田町の会も間もなく創立二十周年を迎えます。

上野池之端の文化会館で昭和六十三年に開催された創立大会に参加された元気印の会員の皆さんも、それぞれに二十年の歴史を刻まれ、今日を迎えられました。手元にある創刊号から一九号までの日本ダボスには会員の皆さんの人生の貴重な「思い」の記録がちりばめられており、書斎を飾る宝物です。この会報誌の企画、そして寄稿・投稿、広告の掲載、編集・発行などに寄与された諸先輩の功績に頭が下がります。

今年はふる里、真田町が四十余年の歴史を閉じ、新生上田市の有力な構成地域として誕生した節目の年でした。小県郡真田町から上田市真田町へ、なにか都会になったような気がしてうれしいのですが、いつまでも「山美しく水清きふる里」であってほしいものです。今年から大先輩に自由に「日頃の思い」を表現して頂く「人生の達人コーナー」を設けてみました。このコーナーへの寄稿・投稿もお待ちしております。

異郷に暮らす私達にとって、ふる里のあちらこちらの写真は懐かしい思い出の一時を提供してくれます。編集部ではその地域出身の方の心に残る場所の写真、特にデジカメ写真の日本ダボスへの提供を募集しております。

本年も大勢の皆様にご貴重な原稿をお寄せいただき、お陰様で無事に第一九号を発行することが出来ました。本当に有難う御座いました。

末筆になりましたが、上田市議会事務局の片岡次長様並びに真田地域自治センター、地域振興課の宮島剛様、お忙しい時期にいろいろとお世話を頂き大変有難う御座いました。厚く御礼申し上げます。また編集スタッフの皆さん大変お世話になりました。（武捨記）

学校の思い出…季節を告げる唱歌・童謡

一月一日

年の始めの 例(ためし)とて、
終なき世の めでたさを、
松竹たてて 門ごとに
祝(いお)う今日こそ 楽しけれ。

初日のひかり さしいでて、
四方(よも)に輝く 今朝のそら、
君がみかげに 比(たぐ)えつつ
仰ぎ見るこそ 尊(とう)とけれ。

雪

雪やこんこ 霰(あられ)やこんこ。
降っては降っては ずんずん積る。
山も野原も 綿帽子(わたぼうし)かぶり、
枯木(かき)残らず 花(はな)が咲く。

スキー

山は白銀 朝日を浴びて、
すべるスキーの風切る速さ。
飛ぶは粉雪(こなゆき)か 舞(ま)い立つ霧(きり)か。
おおおこの身(み)もかけるよかける。

真(ま)一文字(いちもじ)に 身(み)をおどらせて、
さっと飛び越(こ)す飛鳥(とび)の翼(よく)。
ぐんとせまるは ふもと(ふもと)が谷(や)か。
おおおたのしや手練(てね)の飛躍(ひやく)。

早春賦

春(はる)は名(な)のみの風(かぜ)の寒(さ)さや。
谷(や)の鶯(うぐいす) 歌(うた)は思(おも)えど
時にあらずと 声(こゑ)も立てず。
時にあらずと 声(こゑ)も立てず。

あおげば尊し

あおげば尊(たう)し わが師(し)の恩(おん)
教えの庭(にわ)にも はや幾年
思(おも)えばいと疾(はや)し この年月
今(いま)こそ別(わか)れめ いざさらば

互(たが)いに睦(なみ)みし 日頃(ひごろ)の恩(おん)
別(わか)る後(あと)にも やよ忘(わす)るな
身(み)を立て名(な)をあげ やよ励(はげ)めよ
今(いま)こそ別(わか)れめ いざさらば

うれしいひな祭り

あかりをつけましょぼんぼりに
お花(はな)をあげましょ 桃(もも)の花
五人(ごにん)ばやし(ばやし)の 笛太鼓(ふえだこ)
今日はたのしい ひな祭り

春が来た

春(はる)が来た 春(はる)が来た どこに
来た。
山(やま)に来た 里(さと)に来た、
野(の)にも来た。

花(はな)がさく 花(はな)がさく どこに
さく。
山(やま)にさく 里(さと)にさく、
野(の)にもさく。

春の小川

春(はる)の小川(こう)はさらさら行くよ
岸(かた)のすみれやれんげの花(はな)に
すがたやさしく色(いろ)うつくしく
咲(さ)けよ咲(さ)けよとささやきながら

茶摘

夏(なつ)も近づ(き)く八十八(やっぴち)夜(よ)、
野(の)にも山(やま)にも若葉(わかし)が茂(も)る。あれに
見えるは茶摘(ちあき)じゃないか。
あかねだすきに萱(すげ)の笠(かさ)。

日(ひ)和(わ)つづきの今日(けふ)此頃(このころ)を、
心(こゝろ)のどこかに摘(つみ)みつ歌(うた)う。摘(つみ)めよ
摘(つみ)め摘(つみ)め摘(つみ)まねばならぬ。
摘(つみ)まにゃ日本(にっぽん)の茶(ち)にならぬ。

雨降りお月さん

雨(あめ)降りお月(おつき)さん 雲(くも)の陰(かげ)
お嫁(よめ)にゆくとさや 誰(だれ)とゆく
一人(ひとり)で傘(かさ) さしてゆく
傘(かさ)ないときや 誰(だれ)とゆく
シャラシャラシャンシャン鈴(すず)つけた
お馬(うま)にゆられて めれてゆく

夏は来ぬ

卯(う)の花(はな)の匂(にお)う垣根(かきね)に
時鳥(ときどり)(ほととぎす) 早(はや)も来(き)鳴(な)きて
忍音(しのびね)もらす夏(なつ)は来(き)ぬ

さみだれのそそぐ山田(やまだ)に
早乙女(さお乙女)(もすそ)ぬらして
玉苗(たまなえ)植(う)える夏(なつ)は来(き)ぬ

牧場の朝

ただ一面(いちめん)に立ちこめた
牧場(ぼくば)の朝(あ)の霧(きり)の海(うみ)。
ポプラ並木(ポプラ並木)のうっすらと
黒(くろ)い底(そこ)から、勇(ゆう)ましく
鐘(かね)が鳴(な)る鳴(な)る、かんかんと。

案山子

山田(やまだ)の中(なか)の一本足(いっぽんあし)の案山子(あなざんこ)、
天気(てんき)のよいのに蓑笠(ふし)着(き)けて、
朝(あ)から晩(ばん)までただ立ちどおし。
歩(あ)けないのか、山田(やまだ)の案山子(あなざんこ)。

山田(やまだ)の中(なか)の一本足(いっぽんあし)の案山子(あなざんこ)、
弓矢(ゆみや)で威(い)して力(ちから)んで居(ゐ)れど、
山(やま)では鳥(とり)がかあかと笑(わら)う。
耳(みみ)が無(な)いのか、山田(やまだ)の案山子(あなざんこ)。

村祭

村(むら)の鎮守(ちんしゅ)の 神様(かみさま)の
今日(けふ)はめでたい 御祭日(みまつりび)
ドンドンヒャララ ドンヒャララ
ドンドンヒャララ ドンヒャララ
朝(あ)から聞(きこ)える 笛太鼓(ふえだこ)

ふるさと

祭(まつり)も近いと 汽笛(きふく)は呼(よ)ぶが
洗(せん)いざらしの Gパン(ジーパン)ひとつ
白(しろ)い花(はな)咲(さ)く 故郷(ふるさと)が
日暮(ひぐし)れりや恋(こ)しく なるばかり

お嫁(よめ)にゆかずにあなたのことを
待(まち)っていますと 優(やさ)しい便(べん)り
隣(とな)りの村(むら)でも いまごろは
杏(あん)の花(はな)の まっさかり

故郷(ふるさと)

兎(うさぎ) 追(お)いし かの山(やま)
小鮒(こぶな) 釣(つ)りし かの川(がわ)
夢(ゆめ)は今(いま)も めぐりて、
忘れ(わす)れがたき 故郷(ふるさと)

お正月

もういくつねると お正月(お正月)
お正月(お正月)には 凧(たこ) あげて
こまをまわして 遊(あそ)びましょ
はやく来(き)い来(き)い お正月(お正月)

もういくつねると お正月(お正月)
お正月(お正月)には まりついて
おいばねついて 遊(あそ)びましょ
はやく来(き)い来(き)い お正月(お正月)

たきび

かきねのかきねのまがりかど
たきびだたきびだおちばたき
「あたろうか」「あたろうよ」
きたかぜびいふう ふいている

ふるさと風景 2

写真撮影：編集部 武捨 衛人

写真提供(尾引城跡)：鈴木 邦子 理事



"上洗馬神社"



"秋色の明神様"



"御屋敷公園"



"真田本城跡"



"菅平高原のツツジ"



"晩秋のふるさとの道"



"尾引城跡"



"初夏の菅平高原"



ふ る 里 の 川 端 ・ 道 端



写真撮影：編集部 武捨 衛人

日 本 ダ ボ ス 平成18年12月25日発行
発 行 東京真田町の会 会 長 中島 正江
〒158-0091 東京都世田谷区中町 4-35-17E
編集委員 武捨 衛人 鈴木 邦子 堀内 幸
印 刷 上田市・(有)アオヤギ印刷

TEL・FAX 03-3702-1385
木南 和世 (柴田 小夜子)